

平成 27 年度行政提案型市民協働事業

「みんなでエンディングノートを考え、つくろう！」

実績報告書

狛江市 / NPO 法人 狛江共生の家

平成 28 年 4 月

【事業目的】

市民との協働のもとで、市民にとって生活に根ざしたもので書きやすく、かつ、狛江市の独自性を打ち出したエンディングノートを作成し、広く活用してもらうことで高齢者に対し、自身の最期を見据えた気持ちや情報の整理等の浸透及び市への愛着の向上等を図る。

【主体】

狛江市・NPO 法人 狛江共生の家

【事業形態】

狛江市と NPO 法人 狛江共生の家との市民協働事業

※NPO 法人 狛江共生の家のメンバーの他、市内で活動する「狛江の高齢者のくらしをよくする会」、「こまえ社会福祉士会」が加わり、作成作業を行った。

【主たるメンバー】

所属	氏名
NPO 法人 狛江共生の家	河西 信美
NPO 法人 狛江共生の家	若松 博子
狛江の高齢者のくらしをよくする会	富樫 洋子
こまえ社会福祉士会	吉田 栄
狛江市	高齢障がい課高齢者支援係

【作成作業・勉強会等開催日】

		開催日
第 1 回	調整	平成 27 年 4 月 15 日
第 2 回	作成作業	平成 27 年 6 月 9 日
第 3 回	作成作業	平成 27 年 7 月 30 日
第 4 回	作成作業	平成 27 年 9 月 10 日
第 5 回	勉強会①	平成 27 年 9 月 25 日
第 6 回	作成作業	平成 27 年 10 月 8 日
第 7 回	作成作業	平成 27 年 11 月 19 日
第 8 回	作成作業	平成 27 年 12 月 24 日
第 9 回	勉強会②	平成 28 年 1 月 21 日
第 10 回	作成作業	平成 28 年 2 月 15 日
第 11 回	確認作業	平成 28 年 3 月 8 日
第 12 回	市民向け講演会	平成 28 年 3 月 25 日

■勉強会①

開催日：平成 27 年 9 月 25 日（金）午後 2 時～ 4 時

場所：市役所防災センター402・403 会議室

内容：オリジナルエンディングノート作成における注意点
狛江市のオリジナルエンディングノートを作るには？
グループワークによる意見交換会

講師：国分寺介護保険サポーターズ代表 木田マサ子 氏

参加者数：16 人

作成メンバー、ケアマネジャー、終活支援ボランティア、市民等

※地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等に案内した。

<グループワークで出た意見>

(狛江らしさを出すには)

- ・自分と狛江との関わりのページを設ける
- ・自分の好きな狛江の場所・エリアのページを設ける
- ・市民葬儀取扱業者リストを載せる
- ・地域包括支援センターのマップを載せる
- ・相談ができる連絡先を載せる
- ・エンディングノートを開いたときに、狛江らしさを感じさせるようにする
- ・狛江で活動したときの写真を貼れるようにする
- ・市の花や街並みを入れる

(掲載したい項目等)

- ・これからやりたいことを入れる（未来に希望がもてるように）
- ・ペットを頼める人を見つけておくとい
- ・記入しやすいよう簡単にチェックを入れられるようにする
- ・パソコンや携帯電話の処分について
- ・相談先のリスト
- ・支援者を誰にするのか
- ・緊急時の必要項目がわかるもの
- ・死後の対応
- ・認知症になる前に自己紹介的なものを残す必要がある
- ・最終末期を迎えたときに家族等が困らないようなノート
- ・掲載内容は、現場からの実態や要望を入れる
- ・書いてみたいと思える見出しや内容にする
- ・記載内容は、公開できるものと非公開にしたいものがある。一冊に書くのは問題か

(その他)

- ・何歳以上に配布するのか
- ・私らしさを書くことにより、自分自身を決めつけることになるため、何度も書き換えられるようにしたい
- ・財産についての項目は、最小限でよい（もめごとになる恐れがあるため）
- ・一人で書くことは難しい
- ・字を大きくするなど、眼鏡なしで書けるようにする
- ・書くときにアドバイザーが必要か
- ・書いた後の保管場所は、見つけやすい場所に（冷蔵庫など）
- ・市民に配布し、終活の準備を市民が共通話題として持てるように

■勉強会②

開催日：平成 28 年 1 月 21 日（木）午後 2 時～ 4 時

場所：市役所防災センター402 会議室

内容：狛江市オリジナルエンディングノートの記載内容の確認

- ・エンディングノートと遺言の違い
- ・エンディングノートの注意点
- ・エンディングノートを書く意義 等

講師：堀川末子法律事務所 堀川 末子 氏（市民法律相談担当）

参加者数：6 人

■市民向け講演会

開催日：平成 28 年 3 月 25 日（金）午後 2 時～ 4 時

場所：市役所防災センター401・402・403 会議室

内容：「エンディングノートの活用方法について～これからも・まえむきに・えがおで～」

講師：東洋大学ライフデザイン学部教授 井上 治代 氏

参加者数：60 人

周知方法：広報こまえ 3 月 1 日号掲載及びちらし配布

<アンケート集計結果>

回答者数：53 名（回収率 88%）

〔性別〕 男性：16 名 女性：37 名

〔年齢〕

65 歳未満	65～69	70～74	75～79	80～84	85 歳以上
3 名	10 名	12 名	8 名	10 名	10 名

〔参加の動機についてお聞かせください。複数回答可〕〕

- ・エンディングノートに興味があるため 40名
- ・家族等書いてもらいたいため 5名
- ・友人等に誘われて 5名
- ・市の広報、ちらし、新聞を見て 25名
- ・その他 2名

〔今後エンディングノートの講演会や講習会があったら参加したいですか？〕

参加したい：38名 わからない：1名 参加したくない：1名 無回答：2名

〔今後エンディングノートを書く予定はありますか？〕

予定がある：46名 わからない：4名 書くつもりはない：3名

〔自由記述（抜粋）〕

- ・とても興味深い話で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。先生の著書を読ませていただきたいと思いました。
- ・いずれエンディングノートを書かなければと思っていたが、ペンが重く書かずにいました。メモ書きからはじめても良いとのお話を聞き、メモ書きならいつもしていることなので、早速始めてみようと思います。
- ・もう少し時間が欲しかった・・・残念。このような講演を続けて受けたと思います。
- ・自分のためにも家族のためにも書きます。
- ・狛江市エンディングノートは思いがけないプレゼントです。書くことのいいきっかけとなりました。市販のものと違う感じで、自由に自分らしさを記すことができると思いました。
- ・エンディングノートは買ってあるが、白紙の状態、いざ書こうとするとまとまらない、しまい込んでしまう。
- ・私たちの親の世代はいいなと思います。母、父、姉を送り、私には夫がいても子どもがおられませんので、どなたかに死んでから迷惑かけるのかと本気で心配になります。これからの世代はこの問題が大きくなっていく気がします。
- ・先生のお話がよくわかりました。
- ・他界、極楽往生について、家族や友達と十分話し合っており、何があってもOKです。
- ・とても参考になりました。またこのような会をもってください。期待したいです。

■狛江市エンディングノートの特徴

- ・市内在住高齢者が関係する手続きや相談先の掲載
- ・狛江の良さを感じてもらえるよう、見出しに「狛江の魅力創作展」応募作品の掲載
- ・市内で好きな場所を書くことのできるスペースの掲載
- ・記入が容易にできるよう、多くのチェックボックスを設定
- ・ページを自由に加除できる綴じ方の採用、プライバシーに配慮した袋とじの仕様等

■メディアへの露出

【新聞】

- ・産経新聞 3月24日掲載

- ・読売新聞 3月28日掲載

【テレビ】

- ・NHK 首都圏ネットワーク 3月30日放送（2回）
- ・J.COM デイリーニュース 4月15日放送

■エンディングノートの配布

- ・平成28年4月1日より高齢障がい課窓口にて無償配布

※3月25日開催の講演会参加者には、講演当日に配布している。

<配布状況（平成28年4月22日現在）>

- ・カラー版 約600部
- ・白黒版 約350部

■今後の流れ

- ・今回協働した市民団体との共催による、市民向けのエンディングノート書き方教室等の開催を検討。